



アドビ、Technical Communication Suite 5、 FrameMaker 12、RoboHelp 11、 FrameMaker XML Author 12 の提供を開始

【2014年1月15日】

アドビ システムズ 株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：クレイグ ティーゲル 以下 アドビ）は本日、テクニカルライター、ヘルプやポリシー文書作成者、教育用資料のデザイナーのための次世代のシングルソース、マルチデバイスパブリッシングのオーサリングツールとなる [Adobe Technical Communication Suite 5](#) を発表しました。この最新バージョンでは、クラス最高の XML/DITA オーサリング機能と総合的な DTD（Document Type Definition）サポートによって、規格準拠のテクニカルコンテンツ作成を合理化します。また、ワンクリックで HTML5、電子書籍、およびネイティブのモバイルアプリケーションなどのフォーマットに出力できるため、iPad やその他のタブレット、スマートフォン、電子書籍リーダー、ウェブ、およびデスクトップへのシームレスな配信を通じてコンテンツの提供範囲や利用を拡大することができます。

今回の新バージョンでは、Adobe Technical Communication Suite のすべての主要コンポーネントがアップデートされました。これには追加費用が発生せず、プラグインも不要でそのままマルチチャンネルへのパブリッシングに利用できる強力なオーサリングソリューションである [Adobe FrameMaker 12](#)、また、ワンクリックでレスポンスな HTML5 コンテンツを生成することができ、HTML5、EPUB 3、KF8、MOBI、CHM、および PDF を含む 17 種類の出力フォーマットのサポートを通じて機器を問わないパブリッシングを実現する、使いやすいオーサリングおよびマルチチャンネル HTML5 パブリッシングソリューションである [Adobe RoboHelp 11](#) が含まれます。このスイートにはさらに Adobe Captivate 7、Adobe Presenter 9、および Adobe Acrobat XI Pro が加わり、強力な e ラーニングとデモ作成、動的なビデオプレゼンテーション、すぐれた PDF 機能を一体化しています。

アドビのプリント & パブリッシングビジネスユニットのシニア バイスプレジデントである ナレシュ グプタ (Naresh Gupta) は、「技術的な文書による製品やサービスに与える競争力が企業間で認識されることに伴い、高品質、高インパクトのヘルプ情報を従来よりもさらに迅速に提供することの重要性が高まってきています。アドビがこの度リリースしたテクニカルコミュニケーションツールには、タブレットやスマートフォンからウェブやデスクトップまで、機器やプラットフォームの種類を問わず、使いやすく、直ちに行動に結びつけることができ、また容易にアクセス可能なヘルプ情報を作成するためにテクニカルコミュニケーターが必要とするすべての機能が揃っています」と述べています。

XML/DITA と DTD に対応した [Adobe FrameMaker XML Author 12](#) は、寄稿者や各分野の専門家がコンテンツ作成過程に参加するための、安価で使いやすかつ強力な合理化された XML 編集に特化した編集ソリューションです。Adobe FrameMaker XML Author 12 が持つ直観的なユーザーインターフェイスは、コンテンツのオーサリングが進行中の場合も含め、各分野の専門家がリアルタイムかつコンテキストに沿って作業に加わることを可能にし、それによってレビューや承認のサイクルを迅速化します。

お客様のコメント

ジャング・F・M・グラート (Jang F.M. Graat)、JANG Communication、Technical Documentation Specialist

「構造化された XML ベースのオーサリングにおいて、文書作成のターゲットを達成するために使いやすさを犠牲にする必要はなくなりました。技術的ディテールのすべてが組み込まれた強力な新バージョンである Adobe FrameMaker XML Author 12 ソフトウェアを Adobe Technical Communication Suite 5 と共に使用することにより、著者がソフトウェア エンジニアでなくとも多数のフォーマットに配信することが可能になりました。カーナビやクルーズコントロールが組み込まれた最新のクルマが好きな人なら、Adobe FrameMaker XML Author 12 も必ず気に入ります。またフル機能バージョンを試すことのできる『購入前トライアル』オプションは、このソフトウェアの機能を確認すべき良き理由となります。」

ケビン・シーゲル (Kevin Siegel)、IconLogic, Inc. 社長

「高い評価を得ている弊社の『skills & drills』ワークブックは、いずれも Adobe FrameMaker を含む Adobe Technical Communication Suite を使って作成したものです。Adobe Technical Communication Suite 5 のリリースにより、真のシングルソースのコンテンツオーサリングツールである Adobe FrameMaker 12 が利用できるようになりました。FrameMaker 12 からは費用やプラグインの追加を伴うことなく、HTML5、モバイル、ウェブ、デスクトップ、および印刷物へのコンテンツパブリッシングをネイティブに行っています。またそのコンテンツを Adobe RoboHelp 11 に容易に読み込み、そこから EPUB と MOBI の両フォーマットの電子書籍を作成することももちろん可能です。この機能だけでもソリューション全体以上の価値があります。Adobe Captivate と Adobe Presenter で可能なことをあげ始めればきりがありません。」

コラム・マカンドルー (Colum McAndrew)、RoboColum(n) Consulting

「私はテクニカルライターとして常に Adobe RoboHelp 11 を使用し、また他のアドビ製品からコンテンツを簡単に読み込むことのできる機能を頻繁に活用しています。Adobe Captivate 7 によるシミュレーションの追加、Adobe PDF ファイルの埋め込み、あるいは Adobe FrameMaker 12 ファイルのインポートなど、どのような作業が必要となった場合にも最高のコンテンツ作成とその統合に集中し、技術的なディテールに関しては Adobe RoboHelp 11 に任せておけます。」

価格と提供予定

Technical Communication Suite 5、FrameMaker 12、RoboHelp 11、および FrameMaker XML Author12 は、本日よりアドビの販売代理店とアドビストアからご購入いただけます。Technical Communication Suite 5 の提供価格は 224,000 円です（アップグレード価格は 92,000 円から）。FrameMaker 12 と RoboHelp 11 は単体製品としても提供され、提供価格はそれぞれ 131,500 円です（アップグレード価格は 52,500 円から）。FrameMaker XML Author 12 も単体製品として提供され、提供価格は 52,500 円（第 1 世代製品のためアップグレード価格の設定なし）です。いずれの製品も年間サブスクリプションとしてご利用いただけます。価格と対応言語の詳細については、それぞれの製品の Web サイトをご覧ください。

アドビ システムズ社について

アドビは、世界を動かすデジタル体験を提供します。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、Web サイトに掲載されています。

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Captivate, FrameMaker, Presenter and RoboHelp are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated, in the United States and/or other countries.

© 2014 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. All other trademarks are the property of their respective owners.